建築基準法第１２条第５項の規定に基づく

工 事 監 理 報 告 書 （木 造 関 係）

令和　　年　　月　　日

大田区建築主事

代表となる工事監理者	事務所名		級建築士事務所（　　）登録第　　号
	所在地		ＴＥＬ
	資格・氏名		級建築士　（大臣・知事）第　　号
工事施工者	施工者名		建設業許可　（特定・一般）第　　号
	所在地		ＴＥＬ
	氏名		
建築主	住所		ＴＥＬ
	氏名		

下記の建築物は建築基準関係規定に適合した施工を行い、構造耐力上安全であることを確認しましたので報告します。

工事名									
建築場所									
確認年月日番号	令和　年　月　日　第　号						構造計算	ルート1，ルート2，ルート3，その他	
工事概要	構造種別	木造（在来工法・枠組壁工法・　工法）集成材等建築物					工事種別	新　築・増　築・	
	階数	地上　階・地下　階・PH　階					最高の高さ	m	軒の高さ　m
	建築面積	㎡					延べ面積	㎡	
計画変更(有・無)	令和　年　月　日　第　号 内容								
軽微な変更（有・無）	内容								
基礎	支持地盤		支持力　kN／㎡						
	直接基礎	独立・布・べた	液状化対策(有・無)						
	地盤改良	工法： 工法概要： 評定・認定等　年　月　日第　号							
	杭基礎	杭材：PHC(　種)，PRC杭(　類)，鋼管杭，RC杭 工法： 評定・認定等　年　月　日第　号							
コンクリート	普通	基礎	Ｆｃ：18，21，24，			養生方法			
結果	耐圧版	判定強度		四週強度					
	立上がり	判定強度		四週強度					
鉄筋		SD　295・345 （D　～　）		圧接接手・重ね接手 （D　～　）					
金物・釘	ホールダウン金物								
	プレート金物								
	アンカーボルト								
	羽子板金物								
	火打ち金物								
	使用釘								
その他									

木材	軸組工法	土台	檜・ひば・
		柱	檜・松・杉・栂・集成材（　）
		横架材	檜・松・杉・栂・集成材（　）
		母屋	檜・松・杉・栂・集成材（　）
		垂木	檜・松・杉・栂・集成材（　）
		その他	
	枠組壁工法	土台	甲種枠組材　（特級・１級・２級）
		床根太	甲種枠組材　（特級・１級・２級）
		端根太	甲種枠組材　（特級・１級・２級）
		側根太	甲種枠組材　（特級・１級・２級）
		床梁	構造用集成材（　）
		まぐさ	甲種枠組材　（特級・１級・２級）
		天井	構造用集成材（　）
		根太	構造用集成材（　）
		垂木・棟木	
		屋根梁	
		たて枠	甲種枠組材　（特級・１級・２級・３級）
		上枠	甲種枠組材　（ｺﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ）
		頭つなぎ	構造用集成材（　）
		大枠	
		その他	
	共通	耐力壁	檜・松・杉・栂・構造用合板（　）
		床材	構造用合板（　）（　）
	集成材等建築物	柱 間柱を除く	
		横架材 小梁を除く	

確認した項目にチェック☑を入れ、必要に応じて（　）内に詳細を記入すること

【基　礎】

□1　設計支持地盤を確認した。（　　層）
□2　地盤改良の仕様・基準を満足し構造耐力上の支障がないことを確認した。
□3　基礎杭の品質、位置（芯ずれ距離　　mm）、径、長さ、本数及び支持力を確認した。
□4　基礎、地中梁の形状及び位置を確認した。
□5　鉄筋の径、本数、間隔、定着、継手及び位置を確認した。
□6　地中梁の貫通箇所の位置及び補強を確認した。
□7　型枠寸法及びかぶり厚さを確認した。
□8　打設後の養生（コンクリート養生及び型枠、支柱の取り外し等）を適正に行ったことを確認した。
□9　使用するコンクリートの受入れ検査を行い、所要のワーカビリティ、強度、その他の性能が得られたことを確認した。
□10 アンカーボルトの径、定着及び配置を確認した。

【枠組壁工法】

□1　構造耐力上必要な部分に使用する枠組材の品質、寸法及び配置を確認した。
□2　構造耐力上必要な部分に使用する床材、壁材及び屋根下地材の品質及び寸法を確認した。
□3　構造耐力上必要な部分に使用するクギ及びネジの品質及び寸法を確認した。
□4　土台、床根太、端根太及び側根太の品質、寸法及び配置を確認した。
□5　床の各部材相互及び床の枠組と土台又は頭つなぎとの緊結を確認した。
□6　壁の各部材相互及び壁と床、頭つなぎ又はまぐさ受けとの緊結を確認した。
□7　小屋組各部材相互及び小屋組の部材と頭つなぎ又は屋根下地との緊結を確認した。
□8　使用金物の品質、寸法及び位置を確認した。
□9　防蟻及び防腐措置を地盤から（　　m）までしたことを確認した。

【在来工法】　【木造大断面】

□1　構造耐力上必要な部分に使用する軸組材（柱、梁、筋違い、その他の耐力壁等）、床材及び屋根下地材の品質、形状、寸法及び位置を確認した。
□2　柱（通し柱、管柱）、間柱、梁、桁、土台その他の横架材、筋違い及びその他の耐力壁（構造用合板等）の形状、寸法及び配置を確認した。
□3　柱（通し柱、管柱）と梁との緊結及び緊結方法（Ｚ金物及びＣ金物等の工法による）を確認した。
□4　柱（通し柱、管柱）及び梁と筋違いとの緊結方法（Ｚ金物及びＣ金物等の工法による）を確認した。
□5　柱（通し柱、管柱）と土台その他の横架材との緊結及び緊結方法（Ｚ金物及びＣ金物等の工法による）を確認した。
□6　柱（通し柱、管柱）、間柱、梁、桁、土台その他の横架材と構造用合板との緊結に（　　）によって間隔（　　cm）以下に打ち付けたことを確認した。
□7　ホールダウン金物の品質、形状、寸法、位置、緊結及び緊結方法を確認した。
□8　床根太、床梁、胴差との取り合い及び床下地の取り付けを確認した。
□9　小屋組の形状、寸法、緊結及び緊結方法を確認した。
□10 使用金物の品質、形状、寸法、位置、緊結及び緊結方法を確認した。
□11 防蟻及び防腐措置を地盤から（　　m）までしたことを確認した。

下記の品質、強度を以下の方法により検査、確認した。

□コンクリート

□鉄　筋
□鋼　材
□鉄筋継手
□木　材

検査箇所	検査年月日	※1　指摘事項（要写真）	是正年月日	※1　是正内容（要写真）

※2　監理者総合所見

記入上の注意

◎　提出及び記入は、原則として工事監理者によること。
※1 指摘事項と是正内容の欄は、工事監理者が検査を行い、指摘した事項とその是正内容を記入すること。
※2 監理者総合所見の欄は、監理目標とその結果に対する所見を具体的に記入すること。

そ　の　他

● 施工写真、施工記録、データ（ミルシート、各種試験結果等）を提示すること。
● 延べ面積50㎡以上の鉄骨造または鉄骨鉄筋コンクリート造を伴う場合は鉄骨工事報告書を添付すること。
● 鉄筋コンクリート工事（基礎を除く）を伴う場合は工事監理報告書を提示すること。